

The Tokyo Civet Times

東京ハクビシンタイムズ

2014年4月号 通巻64号 毎月1日発行 購読無料

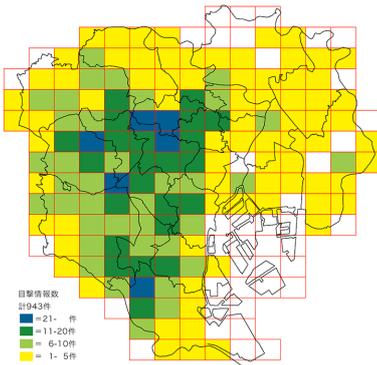
©MIYAMOTO Takumi,2014

責任編集：宮本拓海 発行：東京ハクビシン探検隊！tokyotanuki.jp

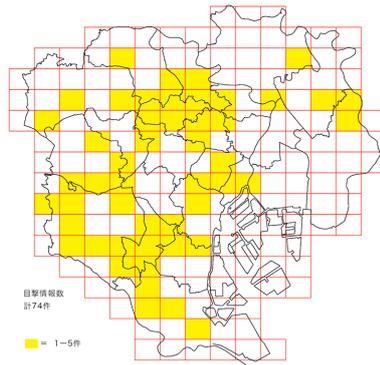
ハクビシンVSアライグマ

東京都23区決戦の行方は

東京都23区 ハクビシン目撃情報分布図(2009年～2013年)



東京都23区 アライグマ目撃情報分布図(2009年～2013年)



ハクビシン(左)とアライグマ(右)の目撃情報の分布地図。2009～2013年の集計。ハクビシンはほぼ全域に広がっている。アライグマは目撃数は少ないものの、既に広く散らばっているらしいことがわかる。

日本の各地では今日もアライグマの被害が発生しています。アライグマはトウモロコシや果実を食べる農業害獣であり、その被害は深刻です。アライグマは外来生物法で「特定外来生物」に指定されており、積極的に駆除が進められています。しかし、生息域の拡大はくいとめられていません。

アライグマが勝てない理由

東京都23区にもアライグマは既に進出しています。推測される生息数は100頭程度かそれ以下です。タヌキ、ハクビシンが1000頭かそれ以上生息しているのに対してまだまだ少ない数です。ここ何年かの目撃情報からもアライグマが急激に増えている様子はありません(タヌキもハクビシンも急増していません)。それならば東京都23区は心配ないのかというところも言えません。アライグマはほとんどの区で目撃されており、既に広く分散してしまっているようなのです。

アライグマが生息数を増やせない理由は、単純なことです。「食べるものが十分ではないから」と考えることができます。食べるものがなければ生きていくことはできません。ただ、これはタヌキもハクビシンも同じことです。

アライグマが増えない原因は食べ物の少なさに加えて、「先にハクビシンが増えてしまったから」ではないかとも考えられます。アライグマは食べ物や運動能力の点でハクビシンによく似ています(タヌキよりも)。アライグマが進出しようとしても、先にハクビシンが居座っているために(そして食べ物も十分でないために)数を増やすことができないのかもしれませんが。

アライグマ対策はどうやる？

この推理が正しいかどうかは現時点では何とも言えません。今後アライグマはさらに増えていくかもしれません。そうするとこの仮説は間違っていたこととなります。

東京タヌキ探検隊！としては今後とも引き続きハクビシンやアライグマの動向は追い続けなければなりません。いつの間にかアライグマが増えていた…ということになっては手遅れですから。

そうなる前にアライグマを積極的に捕獲する必要もあるのですが、行政は乗り気であるようには見えません。23区の場合は生息密度がかなり低いため、結果に対してコストがかかりすぎることなのかもしれません。捕獲ワナ(トラップ)を設置してもタヌキとかハクビシンが誤捕獲される確率の方が高そうですね。アライグマだけを選んで捕まえるということは難しかったりするのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>